

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：本通七丁目自治会

開催場所：本通七丁目公会堂

開催日時：平成 28 年 1 月 27 日（水）19 時 00 分～21 時 04 分

参加者：自治会側【地域住民の方 37 人】

市側【染谷市長、三浦秘書政策課長、高橋協働推進課長、秋山協働推進課課長補佐、駒形秘書政策課係長】

内 容

①茨本通七丁目自治会長あいさつ

- ・私の自治会長の任期もあと 2 ヶ月になった。2 年（自治会長を）やらしてもらって、楽しかった。二中学区の自治会長さんとも親しく話げできた。
- ・七丁目はコンパクトで、人の転入・転出がほとんどない地域で、それが七丁目の特徴でもあり、いいところでもある。
- ・私の前に町内会長を歴任された 3 人の方、全てが今日御参加いただいている。こういったところが七丁目の長所になると思う。
- ・他の組長はじめ、女性の方にも（御参加を）お願いしたが、正直、こんなに多くの方が参加してくださるとは思っていなかった。皆さんの参加に感謝申し上げます。
- ・今、テレビで大きく政治家がお金の問題で騒がれている。私の個人的な考えは、政治は生活だと思ふ。生活は暮らしだと思ふ。暮らしのルールをつくるのが政治家である。そのためには、我々の生活を知らない人がルールをつくってもらっては困る。
- ・今回、市長、役所の方が 68 自治会全てを回る覚悟であります。七丁目は 3 番目で早い。任期中にこの作業ができて幸せである。
- ・暮らしのルールをつくる市長、役所の方が、自治会を回って、我々の生活の仕組み、生活の苦しみを肌で感じ、皆さんの意見を聞いて、今までの政策の見直しの参考にして、これから作ろうとしている我々の大切な生活のルールの中に参考意見として取り上げるというかたちで、この車座トークがスタートしたことを、前回の自治推進委員連絡会議で聞いて、私は大変喜んで受けた。
- ・今日は思う存分、意見を言ってほしいと思ふ。
- ・去年、大井川マラソンのコースを、大津通を通るルートではなく、島商を通って、七丁目の角を 6 千人、7 千人の方がそれぞれのユニフォームで通ってくれることをやってくれた。
- ・保存会（大祭）のお金、皆様にも寄附をいただいているが、道具の管理、補修のお金も、県から 100 万円、市から 100 万円いただきました。
- ・去年の 9 月 21 日に、老人会の日に市長さんが自ら来てくれて、歌を歌ってくれた。
- ・このように市とは関係のある七丁目なので、実のある時間を過ごしてほしい。

②市長からの市政報告

■はじめに

- ・私が一番うれしかったのは、昨年のマラソン大会の時、コースを見直して、島商のところまでまっすぐぶつかって、七丁目の角から入ってくるようなコースにしたところ、七丁目の方々が横断幕を作ってくださいたり、みんなで出て、1万人ものランナーに励ます応援メッセージをくださったことに、参加したランナーはうれしかったとの感想がたくさん書かれていた。おかげさまで、1,600に及ぶ全国のマラソン大会の中で、島田市は上位に、10番目前後に今いると思う。名実ともに日本一になるように、今年も改革を重ねながらやってまいりたい。
- ・自治会長さんが熱い方で、地域と行政をつなぐという意味では、そこにどんな人材がいるかということが大きな力になってくる。
- ・そういう意味において、七丁目さんと行政とは、今後益々強い絆で結ばれていくものと思う。
- ・車座トークは、先ほど自治会長がお話いただいたとおりの趣旨で始めた。
- ・今日は3回目の七丁目ということになる。

■市政運営について

- ・本日、ここに何うにあたって、人口などを調べてきた。昨年の12月31日現在の数値で、人口は861人、世帯数は324世帯、高齢化率は37.3%となっている。人数にすると321人が高齢者となっている。ただ、本通は(高齢化率)が40%くらいのところが多いので、この周辺では高くない。市の平均は29.0%であるので、そのポイントから比べると8ポイントくらい高くなっている。一方、15歳以下の子どもは、100人で人口に占める割合は11.6%で、全市の平均が13.8%となっていることから、ちょっと子どもの数が少ないということになる。
- ・しかし、地域のまとまりがあって、地域力を発揮できる七丁目だなとも思っている。
- ・市長になってから、2年と8ヶ月が経過しようとしている。この5月の末で丸3年。1期4年の集大成の年に入ってきていることを実感している。
- ・「変えよう島田」ということを、皆様に訴えて、「信頼されるまち、安心実感都市島田」をつくるんだということのスローガンに掲げた。
- ・先ほど、自治会長からお話しがあった、暮らしのルールをつくるのが政治家という言葉もあったが、「市民が安心して暮らし続けられるまち」、「市民が信頼を持てるまち」をつくる。そして、近隣の市町からも信頼されるまちをつくっていくことで、クリーンな市政を打ち出しての選挙だったと思う。
- ・その中で、私がお約束したことは4つ。「公平・公正で、市民の声が届く市政の実現」、「市政の透明性を高めるための情報公開」、「広域行政の推進」、「財政の健全化」、この4つを皆様とお約束して市長になった。一生懸命実践していると思っている。
- ・議会では、当局は質問されたことしか答えられない。私から「本当にそうなんですか?」とか「それについてあなたはどう思いますか?」など、反論すること、反問することは当局側にはない。間違っていることを言われていても、訂正できなかつたり、やられっぱなしになっているような気がして、私はいつも悔しい思いをしている。議会については、当局側が情報をたくさん持っているので、当局側に反論権、反問権を持たせないということになっている。
- ・一問一答で議論する中では、「本当にそうなんですか?」とか「あなたは本当にそう思っているのですか?」とかということ、いつも言いたいと思って

いる。また、ホームページで生中継で流しているの、余計にそのことは、いつも思っている。

- ・財政の健全化ということでは、「選択と集中」を重ねて、限られた財政の中で、何を優先させていくのかということをお客様にきちっと説明しながらやっているという市政をやらなければならない。

- ・毎月の広報しまだの裏表紙の裏に「市政羅針盤」というのを書いている。毎月締め切りにあわせて自分で書いている。職員には書かせていない。

- ・色々な機会を通して、市民の皆様私の考え方ややろうとしていることを知っていただきたいと思っている。

- ・この4つの約束は、市政を変えていくという中で、お約束したことである。

- ・もう一つ、私の市政における役割は、私が市長になったのは3年前だが、遡ること60年前、昭和28年に森昌也さんが島田の市長になった。その時、森昌也さんは、「市民の手による市民のための市政」を実現しますということを公約として掲げた。たぶん、リンカーンの「ガバメント・オブ・ザ・ピープル・バイ・ザ・ピープル・フォー・ザ・ピープル」という言葉を引用されたのではないかと思う。つまり「バイ・ザ・ピープル」、市民の手による市政をつくるんだということをおっしゃった。

- ・昭和48年にお辞めになるときには、「島田は小さなまちではあるけれども、そこに住む市民は世界市民なんだ」ということをおっしゃって、自分は量的に発展するまち、すなわち、景気のいい右肩上がりの時代に様々な企業誘致をし、色々なものを建て、量的に面として整備する市政を実現してきたけれども、その上にたつて、これから必要なのは、量的な発展だけではなく、そこにいかに質的发展を載せていくかということが、これからの政治の課題なんだということをおっしゃってお辞めになった。

- ・私は、森さんが市長になられてから60年目という節目に市長になったという役割は、まさに森さんが実現しようとした「市民の手による市民のための市政」もう一度しっかりつくっていくことだと思っている。

- ・今、急激な高齢化、少子化、人口減少という厳しい時代にあつて、森さんの時代から比べれば、まるきり裏側から見ているような、右肩上がりですごい成長して、土地はどんどん上がっていくし、給料は上がっていくし、人は増えていくし、ということは、あたり前に信じていた時代から、わずか40年で真逆の状態、土地はあがることはないし、人口は減り続けるし、高齢化は待たないでという真逆の状態を受けた私が、そこにあつて質的发展とは何なのかということをお客様と一緒に考えていかなければならないという市政を実現するという思いですごいやってきた。

- ・3年間通して、人を大事にする市政をやってきたと思っている。人を大事にする市政というのは、政治の根本は命を守ることだと思っている。

- ・市内には弱い立場の方が大勢いらっしゃる。そういう方々の生活を守りきるということが政治の役割である。

- ・市内を私が周って感じるの、年金を頼りに暮らしている高齢者が増えていること、一人暮らしで、食生活もやっとならという暮らしをしている方が多くなっていることも現実にある。

- ・一方で、40代でも50代でも単身の方が増えてきている。高齢の両親を単身の息子や娘が支えるということも多くなっている。表に出ない暮らしの底辺のところ、毎日を営んでいる、そういう方たちに対して安心して暮らし続けられる市政のベースを作っていかななくてはならないということが市政の根っこのところだと思っている。

・右肩上がりの時代ではなくなった今の時代（社会）の新しい価値観というものを作っていかねばならないと思っている。そのためにも、4つの約束はしっかりやっていかねばならない。また、弱者救済というか、高齢の方々が安心して、ここで生きがいを持って、健康長寿を全うできる、そういう政策をしていくこと、そして、若い人たちが入ってこれるような、仕事を創って、子育てや教育の政策を重ねていって、魅力あるまちをつくらせていきたいと思っている。

・子育て支援で言うならば、昨年、埼玉の所沢で課題になった「育休退園」という、子どもが2歳児未満で、次のお子さんが生まれるときに、上の子が保育園に行っていると退園させなければいけないというルールを今年からやめます。

・一つには、待機児童が多いため、その枠ということもあるし、もう一つ、保育園の先生方に言わせれば、2歳以下の子どもはやっぱり親のもとが一番だと。親が家にいるのなら親のもとにおきたいということは私も思う。ただ、育休退園を廃止しないことによって、若い人たちがよそのまちを選ぶということになれば、それは困るので、そういったところは改善しながら、平成29年度には待機児童ゼロを目指して、今も時期によっては違うが、10人～30人くらいは待機児童となっている状況において、今年から事業者は決めたが、0歳～2歳までの子どもを専用で預かる保育園をつくる。

・今年度は、第一保育園、第三保育園は職員室とか休憩室も保育室に代えて、代わりのものを庭にプレハブで建てて定員を増やしていく。

・このように徹底して、待機児童の解消、放課後児童クラブの開設には力を入れていきたいと考えている。

・もう一つ私の役割だと思っていることは、若い人たちに世代交代（バトンタッチ）をしていくこと。これも今の島田の課題だと思っている。実際には、60代、70代以上の方々が、本当に実力のある方が多いまちなので、その方々がまだまだ力を持っている。それは本当にありがたいことだが、次の30代、40代、50代の人たちに、まちづくりだとか行政だとか、そういうことに関心を持ってもらう。やっぱり関わってもらわなくてはならないと思っているので、市も審議会や、委員会にできるだけ、50歳以下の市民委員を半分入れようという様なかたちで、若い人たちの意見を登用していく、JC（青年会議所）、商工会議所、商工会の青年部の方たち、こういった方々がやろうとしていることについては、積極的に行政も関わって応援していく。様々なかたちで、若い世代の方たちがまちづくりに関わっていけるような政策をやっていく、それが政治の役割だと思っているので、そういった市政を展開してきている。

■市民会館について

・市民会館の前にある「帯桜」（希少品種で全国に一本しかない桜）を市長就任以来、苗を増やしていて、ようやく45本に増えた。山桜に接ぎ木をしてやっているが、5割も成功しない。この苗を、1月10日の成人式の日、記念植樹ということで、新市誕生10周年にあわせて、10本、中央公園に記念植樹をした。毎年この帯桜を増やすことで、10年先、20年先にしまだの街中で、2月の中旬に帯桜の花が咲く、「帯桜のまち しまだ」ができあがっていくように、帯桜の普及にも力を入れたいと考えている。これが新市誕生10周年から始まったと皆様に言ってもらえるように、広めていきたいと思っている。

・この帯桜のある裏側に市民会館があるが、この市民会館については、皆様に大変御心配をおかけしている。市民会館は昨年11月の補正で、解体のための設計費をあげさせていただき、新年度の当初予算には、解体費をあげていく。4月からは無理かもしれないが、できるだけ早い時期から解体をはじめてまいりたい。中は空洞の部分が大きいため、壊すにも設計が必要となっている。できれば秋まで、一番の理想は大祭に間に合わすことだが、大祭に間に合う

かギリギリです。秋までに更地にして、当面の間は、駐車場とイベント広場、中心市街地の方々の災害時の避難場所として使えるようにしたい。

- ・では、市民会館はどうするんだということを言われると思うが、建築の要望もいただいている中で、市民会館の閉鎖する前の5年間の稼働率を見ると、1年のうちに練習日も含めて、ホールが使われているのは30日くらいとなっている。
- ・これに対して、同じものをつくるとなると、70～80億円、100億円、役所を造るよりもお金がかかる。今「プラザおおり」にも「夢づくり会館」にも「チャリム」にも600人以上収容できるホールがある中で、大きな舞台のあるホールは、志太の3市の中で融通をしばらくつけていきたいと思っている。
- ・新しい市役所を造るときに、市民会館も併設できるのかということを検討すればいいと思っている。
- ・市民会館の解体が遅れたこと理由は、市役所の庁舎を建替えるのなら、今の敷地しかないと思っている。国は壊して新たなものをつくるならば補助金が出るが、今あるものを壊すだけでは補助金はない。市役所が建てられるのかを定めないうちは市役所を壊すのは大変だという判断の中で、去年の3月市役所の庁舎は築53年になるが、これからの島田が大きく発展していくために、投資をしているんなことをやりたい、そっちの方が庁舎よりも優先だと思う。したがって、庁舎の建設はしばらく待つ。耐震は十分大丈夫であるということが検査でわかっているので、市民の皆様は年に数回しか訪れないところなので、今のままでやっていくこととしたので、市民会館は今年壊すこととした。解体だけでも1億5千万円くらいかかる。

■新病院の建設について

- ・今島田は、ハード面では市民病院の建設を一番の事業にしている。
- ・445床、今の概算では247億円という数字をあげているが、うち50億円は医療機器の整備費用である。建設費プラス最新の医療機器をそろえるということで、お医者様にも安定的に来ていただけるよう、市民の皆様にも選んでいただける病院をつくっていくということである。
- ・28年度は、いよいよ基本設計に入る。先日、基本設計の業者の公募を締め切った。全国的に名だたる病院の設計事務所が手を挙げてきている。第一次審査が終わった後、3月13日（日）午前9時から「みんくる」で、一次審査を過ぎた病院の設計の提案（プロポーザル）を一般公開（全面公開）で行う。市民の皆様にも、是非、今の新たな病院のコンセプトや工夫がどのようにされて提案されるのか聞いていただきたい。一つの提案に概ね1時間はかかると思うので、一次審査にいくつ通るかわからないが、朝9時から順次やっていく。議員の皆様、市の幹部職員にも参加してほしいし、市民の皆様にも是非、聞いてもらって、どういう病院ができるのかという話をともに共有していきたいと思っている。
- ・市の大きな計画に関するプロポーザルでやるようなものは、基本的に一般公開でやっている。プレゼンテーションとヒアリングに関しては、市民の皆様に関心を持ってもらうために、常に一般公開でやっているの、そういう機会があるときに、皆様のご意見もいただけたらと思う。
- ・余談ではあるが、金中跡地については、台地の上に、5.5ヘクタールの敷地があって、以前は、土地は島田市が整備して上物は県が整備するという約束でメッセを造るんだという話があった。川勝知事になってから、メッセなんて飛んじゃっていて、全くお話がないという状態だった。私が引き継いだときには、あそこは金中跡地だけではなくて、農業試験場等を買収して5.5ヘクタールの広い土地にしたので、国のまちづくり支援交付金など、色々な補助金をつぎ込んでいた。上物がいつまでもできなかつたら、いただいた交付金や補助金を返さなくてははいけない。そういうギリギリのところ、バトンタッチ

をした。私が、すぐに川勝知事にお話したのは、メッセにはこだわらないと。しかし、地域振興と交流人口の拡大につながる、そういった提案と一緒にやりたいとお話をさせていただいた。県もものすごい財政難なので、県が独自で上物を造ることはできない。そういう中で、民間活力を入れて、あの土地をどう活用するかということ在全国公募していきたいということで、今、アイデアコンペを県と一緒に実施している。2月5日に締め切るので、2月の中旬までに市内4か所で、市民の皆様はその提案を見ていただいて、市民の皆様にご投票をしていただくということをする。昨年未までに85のところは事前登録をしているが、そのうちいくつかが出てくるかわからないが、全国から提案が集まっているので、市民の皆様にご投票していただくような金中跡地の使い方がいいのかを投票していただいて審査の参考にしていく。

- ・その後、3月には世界の名だたる権威の方たちが審査員となっているが、その先生方たちが審査をしてアイデアコンペの大賞を決めていくことになる。
- ・28年度に、このアイデアをもとに、県と市で事業計画案を作成し、その後、業者を選定するためのプロポーザルを経て、事業所を決めていきたい。
- ・お茶の郷も6月1日には県に移管する。仮称ではあるが、県の「ふじのくにお茶の都ミュージアム」として、リニューアルしてから、県が造る静岡県のお茶の拠点として整備する予定となっている。現在、富士山世界遺産センターや静岡空港ターミナルビルで設計費や建設費のことももめている。
- ・このため、「ふじのくにお茶の都ミュージアム」がどの程度のお金がかかるのか、知事の提案が議会で通ってくれれば速やかにいすが、ちょっともめると時間がかかるなど思っているが、少なくとも29年度中にはリニューアルオープンするものと期待している。
- ・金中跡地とお茶の郷と、あの一体を「ティーガーデンシティ構想」として面として整備をしていきたいということで、市も道路網の整備、幅5mの歩道を整備、面として行き来をしてもらえるようにしていきたい。

■街中のにぎわいについて

- ・蓬莱橋周辺も多くの観光客が来るが、何も建てられない状況であったが、国土交通省の許認可も少し緩やかになって、協議会を1年作って検討した結果については、「ミズベリング」という形で国土交通省の事業の一環として、許可をいただいて、蓬莱橋のところに、観光物産所（お茶をお出ししたり、お土産物を売ったりすることができる施設）造れそうだということで、今年は協議会を作って、造るのは29年度になる。
- ・この場所には、勝海舟の銅像を建てる予定で、現在、中条景昭の像が対岸に建っているが、中条景昭がこの島田に来たのは、勝海舟の命令で来ている。勝海舟は、開拓団として入ってきた中条景昭らに対して手厚く「がんばれ」、「日本の将来は君たちにかかっている」というような気持ちが熱くなるような手紙も出していて、その手紙が最近、千葉県で発見された。勝海舟が台地の方に手を広げている銅像を建てたいと思っている。
- ・蓬莱橋だけでなく牧之原に入った開拓団のことも触れてストーリー性のある場所にできたらと考えている。

■地場産業の振興について

- ・島田は企業のうちの98～99%が中小企業であるため、一人でも多くの雇用を増やし、余力を蓄えられるよう、地場産業の支援ということは、島田にとって欠かせないものである。
- ・産業支援センターを、街中の島田信用金庫の近くに整備する。4月の中旬までにはオープンできるかと思っている。これは、島田市、島田信用金庫、商工会議所、商工会の4者の連携の中で、行政が公的機関として整備するもの。そこに島田信用金庫からも人を派遣してほしいし、商工会議所からも人を出してほしいし、一般からセンター長を雇い入れて、そこに置き、行政からもそこに人を派遣して、嘱託員も雇い、様々な経営支援、補助金等の申請を、書くのが大変ならそれを手伝うし、副業支援もやるし、操業支援、起業支援、そして経営が大変という場合には、どういうふうに活路を見出すのかということも含めて、丁寧な支援をしていきたいと思っており常に発信力をもってやっていきたい。
- ・国の専門家派遣という制度を受けながら、経営セミナーや新たな国の施策の説明会だとか、そういったこともあわせながら地場産業の支援に力を入れていきたい。
- ・島田の逸品を昨年10品つくったが、今年も来年もやって、「島田ブランド」という確立していきたいと思っている。

■島田市緑茶化計画について

- ・昨年11月に新市誕生10周年記念式典の場において、シティープロモーションということで、「島田市緑茶化計画」というものを発表した。島田はどんなまちなのと聞かれたときに、「島田は緑茶のまちなんです。」「お茶へのこだわりは島田は特別なんです。」ということのを売りにしながら、島田の人たちに自信と誇りを持っていただけるような、そういう政策をしていくという中で、島田の色を「緑茶グリーン」という名称で決めた。
- ・例えば、グラウンドゴルフのゼッケンを緑茶色に統一したり、島田市緑茶化計画というロゴを入れて、いつもそのゼッケンを使うのであれば、そこにも支援をしていきたい。少年団がユニフォームを緑茶色に替えるなら、そこに支援を出したい。
- ・市民の皆様が細やかに島田市緑茶化計画を応援してくださることに對しては、28年度予算に盛り込んでいる。
- ・広報課には、28年4月から「シティープロモーション推進室」ができるので、そこが担当になるが、とにかく島田の元気をつくる一歩として、ロゴマークも、緑の三本は「島田茶」「金谷茶」「川根茶」、水色の三本は大井川の清流を表し、4つが一つの柀になって、着物の柄で言うと、算木くずしという日本古来の柄になっている。見た感じ、みんな懐かしいと感じるし、いい柄だと思う。これを使って、商売していただいて結構。このデータは広報課で皆様にお出ししている。ネクタイ作ろうが、カードを作ろうが、封筒に印刷して下さる方が、どんなふうに使って下さっても結構ということで、オープンデータということで出しているの、是非お使いいただければと思う。こういったものを何かに使いたいというご相談があれば、それもお願ひしたいと思う。

■30歳の同窓会について

- ・若い人たちに島田に住んでもらいたいということで、28年度から新たに「30歳の同窓会（成人式）」名称ははっきり決めていないが実施をする。
- ・20歳の成人式をやっても、みんなまだまだ子どもで、ぜんぜん考えていない。しかし、首都圏に働きに行っている人たちが30歳くらいになると、そろそろ、ここでずっと働き続けるのか、ここで所帯もって子どもを育てていけるのかと色々なことを考える時期だと思う。その時に、一度地元に戻ってきて、ここでがんばっている仲間たちと会っていただいて、行政がどんな政策をしているのかもお話させていただいて、一人でも二人でも島田に戻ってくるのも選択肢だなどと思っていただけるようなそういう会にしていきたい。
- ・これは、行政だけではなくて、いわゆる島田の青年3団体（商工会議所青年部、商工会青年部、青年会議所）に協力を求めている。彼らが自分たちのネットワークや各中学校の同窓会のネットワークだとかを使って、自ら主催してもらい、行政はそこにお金を出すというような形で市民がやっていく。
- ・私は基本的には、市民の皆様がたくさん力を借りたいと思っている。行政がやっても、たとえがいいかわからないが、アスファルトを流れる水のごとくである。その時はたくさん流れるが浸み込まない。地域の皆様にやっていただくと、それは本当に地に浸透して、根っこを育てていこことになる。そういうまちづくりをこれから推進していかなくてはならないと私は思っている。

■その他

- ・大津通の電線の地中化については、29年度には完成する見込みとなっている。今年の大祭には間に合わないかもしれないが、地中化されれば、すっきりとした通りが、島田の街の中、野田インターから河川敷までつながる、まさに基幹道路となるのでよろしくお願ひしたい。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	■将来、大学や専門学校の誘致は考えているか？	<p>●島田に医大をという話が以前あったが、私が就任した時には、現実的には大学から断られていた。そういう書類も出てきて、大学の誘致は、今は、場所も提供し、建物も提供し、全面的に来ていただくという話になるが、少子化の折、文部科学省も新しい大学の設置や学部への設置には大変厳しい基準を持っている。こうした中、どれだけ大学がこの島田市に出てきてくれるのかということを考えてとき、可能性がゼロとは言わないが、現実的にとれる政策ということを考えていくべきだと思う。大学を誘致したときに、本当に、ここに何百人の学生がアパートを借りて、住んでお金を落としてくれたらこんなにいいことはない。しかし、それはよっぽど大きな大学、名の通った大学でないと、大体この近辺の大学を見ても、自宅から通っている学生が多い。そういう中で、そこに掛ける費用とこちらが経済効果として受けるものとのバランスを考えてとき、どういうまちづくりをしていかなければいけないか、すごく大事なことだと思っている。</p> <p>●私自身は、もちろん大学や専門学校の誘致を機会があればと思っているが、現実的に</p>

		<p>は、島田は5つも高校がある。10万人規模で5つも高校があるところはなかなかなくて、しかも商業高校、工業高校といった、すごくいい人材を輩出する学校がいっぱいある。そういうところの人材を、うまく企業につないでいく、そういったことをうちのメリットとして打ち出していくことと、公立の高校に、特進コースというのか、国公立大学医学部に入れるような学生が増えることによって、実はぐるっと回って島田市民病院にお医者様が来ることにつながり、島田市に開院する先生が増えてくることにつながってくるので、高校への支援というものは時間はかかるが大事なことだと考えている。</p>
2	<p>■商店をやっているが、10年前、20年前から比べるとまるっきり人通りがなくなっている。売り上げも5分の1、10分の1になっている店がほとんどだと思う。固定資産税をタダにしろとは言わないが、50%、60%安くしてもらえないかな？とりあえずきっかけとして。</p> <p>■商店街の人通りが減ったのは、大店法の規制緩和によるものだと思う。会合などでは、個店の皆さんがんばってという声は行政から良く聞くが、個人がいくらがんばっても無理。</p>	<p>●お気持ちはすごく良くわかる。固定資産税の減免というのは、法律で決まっていることもあって、難しい課題がある。頭の隅には置いておきたい。</p> <p>●私の方からは、増税の話をしなければならない。増税といっても、固定資産税とか市民税を上げるということではない。特定空家というのに指定されると、更地と同じだけの税金がかかることになる。そうすると、上物のあるものの6倍の税金になる。これは、国の法律改正で、特定空家というのは、1年以上住んでなくて、放置すると危険がある、誰かが住んでしまったり、朽ちて誰かが怪我したりという恐れがある、そういうものに対して行政が取り壊すことができるという法律ができた。1年以上放置されて、特定空家だと認定されると上ものがあっても更地と同じだけの課税をするということ。去年からできた制度なので、今年一年くらいは、特定空家（の該当物件）を市が確認する期間になるので特定空家として認定されるかはわからないが。</p> <p>●一方、空き家を店舗、介護住宅に活用できないかとか、アパート、マンションなどを準公営住宅として使えないかとか。この準公営住宅については私も前から考えていて、今からの時代、市が市営住宅を建てていく時代ではない。物を持つということは、それだけ維持管理にお金がかかるし、いつか壊さなければならなくなる。むしろ、市内にアパートやマンションの空き家が増えてくる。こういったものを行政が借り上げたり、家賃を補助することで市営住宅の代わりにできないかという発想を持っている。</p> <p>●現実には、公営住宅には造り方の基準があってその基準を満たしていないと公営住宅として認められないということもあって、一般のアパートなどでは手直しをしないと基準を満たさないものが多いと思う。その手直しにかかる経費に補助を出すなどして国もお手伝いをするという規制緩和の話が進んでいる。その流れを見定めながら、空き家をどう活用していくかが変わっていくと思う。</p> <p>●元気だけど、年を取ったという人たちのシェアハウス（何人かの人たちが寄り集まって暮らす）。一緒に居間や台所は使うが、個室がちゃんとあるといったもの。シェアハウスなら、お互いも見守りなどもできるので、一人ではないというところもあって、行政からすると、まとまって住んでいただければ、見守りに効率化が図られることにもなる。</p> <p>●一生懸命働けば、みんな結婚できて、みんな子どもを産んでといった時代ではなくなった。規制緩和から発生した、非正規労働というものが日本社会に広まって、特に若い</p>

		人たちの雇用に大きく影を落としていると思う。
3	<p>■意見だけで回答はもらえないが、茶業の振興ということで、玉露の里があったり、藤枝抹茶があったり、深蒸茶があったり、いろいろ柱がある。島田も何かの柱があったほうがいい。市内の業者と話をされたらと思う。</p> <p>■蓬莱橋のことで、島田大橋ができたために蓬莱橋越しに見える富士山の写真が撮れない。以前は撮影できて、その写真も残っている。牧之原台地に富士山と、蓬莱橋を撮影できるスポットを整備したらどうか。</p>	<p>●写真スポットは、蓬莱橋の上でも、ここが写真スポットと、後ろに富士山が入りますよとか、夕日が入りますよとか、ちょっとした掲示ができれば、皆さんそこで写真も撮るでしょうし、そんなことをあわせながらやっていきたい。</p> <p>●島田のお茶のブランドの確立というのは、まさに今年のテーマでもあって、全国的に言えば静岡県のお茶である。島田の中では、島田茶、金谷茶、川根茶にこだわっているので、なかなか発信するのは難しいので、皆さんが大きく一つになれるよう、どうしてお茶で海外に打って出るかということは、ワーキンググループというか、お茶をやっている若い人たちを巻き込んで研究していきたい。</p>
4	<p>■市とかが潤っていくためには、若い人たちが移住したり、少子化の対策を講じたりする必要があると思うが、幼稚園や保育園の数がいくつあるかわからないが、無料化というもののお考えはあるか？</p>	<p>●保育園の無料化、子ども医療費の完全無料化、あるいは給食費の無料化など、サービスの競い合いのように、色々な無料化の話が出ている。保育園の無料化については、私の記憶の中の話では、4億円くらい、医療費の無料化は、1回500円だけ負担いただいているが、これで3億3千万円くらい、これに500円払っていただいている分を含めると、4億円くらい。給食費は、人件費だとか施設費だとか、そういったものは行政がみて、材料費だけを給食費としていただいているが、この材料費だけの給食費としてもらっている額だけで4億円となる。これは優先順序だと思う。保育園の無料化は、低所得の方の減免はすごくきいていて、数千円で入っている。ただ、両親が公務員とかになると、結構高い保育料になっている。ここが一律無料にすることによって、どこかでこの4億円を生み出していかなくてはならない。何かの事業を縮めていく、あるいはこの4億円があれば代替りできる事業があるということを考えたときに、私は保育園の無料化というのは、子ども医療費とあわせて、国がやる政策だと思っている。国が責任持ってやらなくてはいけない政策だと思っていて、というのは、小さな町だと子供の数も少ないので、(このような政策が) やりやすい。大きくなればなっただ、うんと財力があればいいが、財力の差だとか、そのまちの子供の数だとか、そういうことでなかなか、やれるところ、やれないところが出てくるっていう差があってはならない政策がまさに子育てのときの政策である。したがって、ナショナル・ミニマムで子ども医療費と保育料の無料化についてはお願いしたいということを常に国のほうには話をしている。義務教育は小学校からだが、それをもっと下から義務教育化してもらえないかということで、今、他の市町もあわせながら国のほうに要望しているところ。ただ、国も財政が厳しい中で、消費税の値上げをその財源にしたいというようなお話も出ている。これはまさに選択だと思っていて、それをやることによって、他を我慢してもそれをやるべきだという皆さんの声ならば、保育料の無料化をやらなくてはならないが、現実には低所得の方には減免措置がある。なので、そういう意味で、完全に無料化すべきなのかどうかということについては、考え方があのかなと思う。</p>
4-1	<p>■現実的には難しいですね？</p>	<p>●幼稚園のほうは月謝をとっているわけで、今、幼稚園の希望者がどんどん減っている。</p>

		<p>保育園のほうはどんどん増えている。幼稚園のほうは10月1日に毎年次の年の園児の募集をやるが(1か月間)、その結果、昨年の募集結果を見ると、ほぼ定員を満たしているのは2つの幼稚園しかなく、5割を切っているような幼稚園もいくつかある。一方、保育園を希望する方は増えている。こういう今の状況があるので、認定こども園(幼稚園も保育園も兼ねているような)といったものも増やしていかなければならないと思っている。</p>
5	<p>■市民会館について、市長さんのお考えは十分にわかるが、文化の発展とか交流には、ああいうもの(市民会館)が絶対必要だと思うので、お金の問題もあると思うが、いずれは再建ということを要望する。</p>	<p>●その思いは承った。市民会館は、県下で2番目にできた施設で、一番大きく、一番立派な施設ができた。昔を覚えてらっしゃる方は、たくさんのバスがいつもあそこに来て、芸能人の興行が行われて、そういったものが皆様の記憶にあるから、市民会館がなくなるといことは、島田の文化の発展の振興のためにどうなんだという思いを抱かれて、それはすごくよくわかるし、市民会館があることが島田の誇り、島田の市民文化力の表れであったし、そのことによって、コーラスだとか吹奏楽だとかが育ってきたのは現実。あったほうがいいに決まっている。ただ、今の時代において、どの市も人口が減っていく中で、1,500人だとか2,000人だとかという規模の市民会館を、どこもみんな造る時代なのかということも検討していかなくてはいけない。先ほどお話ししたように稼働率が少ないので、費用対効果としてそれをやるのか。今は道路なども補修、点検にお金がかかっている、長寿命化対策というのが土木費の4割近くを占めている。国も平成12年頃には、全国の自治体に道路をつくる補助金だけで15兆円以上のお金を出してくれていた。これが、26年度も27年度も当初予算についているお金は5兆1千億円、3分の1となっている。県の方も、35の市町に道路をつくるための補助金で、同じ頃165億円を超えるお金を出してくれていた。しかし、去年も一昨年も当初予算のペースで46億円くらい、これも7割カットという状況になっている。本通御飯屋線の歩道をつくるのにも、ずいぶん長くお待たせしてしまったのは、やりたくても補助金が付かない新しい事業に取り掛かれないということも現実にある。継続している事業を優先的にやっているので、今年やろうと思っていたものが、予算がつかなければ来年に送っていくということで、「やらない」のではなくて、「やれない」という状況になっている。また、学校なども同じような時代にたくさんの学校を造った。昭和40年代後半から50年代にかけて。今、18の小学校と7の中学校がある。しかし年間に生まれるお子さんは大体750人に行くかどうかの人数になってきている。今年の成人式は初めて1,000人を切った。数年前までは1,300人いた。その前は1,800人いた。それから比べると半分以下になっている。18の小学校も(全校児童が)700人ちょっとということになると、どのクラスも一クラスという時代になってきた中で、小規模校においては、部活も満足にできない。サッカーのチーム編成ができない。野球ができない。部活動を選ぶこともできない。クラス替えもできないということになってきたときに、教育環境としてどうなんだと考えなくてはならない。お金のことではなく、子どもの教育環境としてどういう環境がふさ</p>

		<p>わしいのかということも思った時に、将来的には小学校と中学校を一貫教育の中でやっていくような、そこに特色のある教育を加えていくような、そういう政策も必要なんだということも私自身考え始めている。</p> <p>●市民会館のことについては、これまでの歴史と市民文化力の旗印だったことも、何もかも十分に承知をしている。お金さえあればすぐにでも造りたい。今を生きる我々のことは、今の時代の人間のお金で何とかしていかなくてはならないというベースを持っている。次々と次の世代に先送りしたら、次の世代の島田の人たちは、自分たちがやりたいことができなくなっていく。次の世代の人たちにも、投資的経費があつて、まちづくりができる、そういう島田をつないでいかなくてはいけない。自分の任期のことだけ考えればいいとは思っていない。10年先、20年先の島田のために、今何を選択するのかということが島田市長の責任だと思っている。右肩上がりの時代には、任期の間にどんどんやればよかった。借金は次の世代に引き継いだって、まあなんとかかなるというといった時代ではない。その時にいかにギアチェンジがうまくできるかということが、これからのまちの発展にかかっていると思っている。そういうところを市民の皆様にご理解いただきたい。これからの、新しい島田のまちの新しい価値観をつくっていかねばならない。</p>
6	<p>■先ほどからご説明いただいている内容は最もだと思うが、PR、発信力が弱いと感じる。もう少しPRを上手にやったらどうか？</p>	<p>●目に見えるものは、とても皆様に分かりやすい。しかし、目に見えないところを皆様に浸透させるということは、発信したつもりでも、全然あがっていないし、とても難しいことだと感じている。自分自身が一番課題だと思い、地域を隈なく歩きたいと思ったその動機のひとつはまさにそこにある。これからもこのことは肝に銘じてやっていきたい。</p>
7	<p>■川根地域には、イノシシ、鹿、猿、カモシカがいる。梅の時期に家山の方に行ったときに、地域のおばあさんがしいたけを取っていた。聞いたら、イノシシ、鹿、猿にやられる（取られる）と言っていた。やられっぱなしなので、ちょっとでもでると（しいたけができると）取るんだと。市ではそのような害の額をどのくらいと把握しているのか？</p>	<p>●被害額でどれくらい食べられてしまったものか、お金に換算するといくらになるのかという被害額は把握していない。イノシシについては11月～2月までが猟期で4か月となっている。それ以外の時期にイノシシをとっていただいた方には、県と市あわせて一頭あたり17,000円の補助を出している。この鳥獣被害がかなり多くなってきているため、27年度からは、電気柵を我が家の庭にという方にも一軒あたり50,000円の補助金を出している。それまでは20,000円くらいだったと思う。少しでも電気柵の普及を図りたいということで増額した。今は市が主になってやっている鳥獣被害対策だが、イノシシは住民票を持っていない。藤枝から島田に来て菊川に行ったりと、たまたま獲れたところが島田だということで、島田がお金を払う。本来は、県がもっと力を入れて鳥獣被害対策をやってもらいたいという要望も出している。営農する方が、たとえ家庭菜園であっても、根負けして人間がやめてしまうというような状況にまできている。狸一頭も3,000円だったと思うが、そういったお金も市の方で出している。</p>
8	<p>■伊太和里の湯の名物料理にしたらどうか？</p>	<p>●ジビエの対策は、必要ではあるがなかなか難しいところがあつて、猟期が限られていること、鉄砲で打ったものは血が回ってしまつて食用には向かない。罾で獲らなく</p>

		<p>てはいけない。イノシシも若いものでないと売り物にならない。寄生虫があつてはだめ。獲れる頭数の10分の1くらいしか販売用の肉にならない。それから、殺してから3、4時間の間に加工場搬入しないとにならないなど、難しいハードルがある。今、広域でこのジビエの加工場ができないかという検討をしている。</p>
9	<p>■収入増の話で、空港やインターチェンジができて数年経つが、市としてどのように活用しているか見えないところがある。新東名の出口あたりの開発をしたらどうか。かなりダイナミックな物流が可能となる。工場だとか物流倉庫などもいいのではないか。空港は、旅客が注目されがちだが、貨物便もできると思う。例えば空港を24時間使えるようにして、国際貨物便を誘致する。10年程前には、小松空港では、ドイツのルフトハンザ航空の貨物定期便が就航しているので、地方空港でもできると思う。そうなれば物流倉庫の需要もあると思うので、立地すれば税収も増えるのではないか。</p>	<p>●島田は、東名、新東名、国1、国473、空港があるといった、県内でも稀な交通結節点としての魅力がある。まして大井川があることから豊かな伏流水、非常に水質のいい水が出る。これが島田の売りだと思っていて、新東名島田金谷インターチェンジ周辺に78ヘクタールの内陸フロンティアを指定した。そのうちの34ヘクタールを工業用地として農振（農業振興地域）の除外ができるかどうかを28年度の定期除外にかけようと、今まさに関東農政局と協議を始めたところである。今は運転手が交代（スイッチ）して荷物を運ぶようになっているので、こうしたスイッチの拠点とするような物流の拠点もあるし、島田は良質の水が出るが、内陸フロンティアでやっている市町はいくつかあるがどこも水がない。島田はこの水を最大の売りにして工場誘致ができないかという話をしている。来月の末になったら、発表したいと思っているが、国道473号と新東名がぶつかる下のあたりに、「にぎわい交流拠点」を島田市とNEXCO中日本と大井川鐵道とJA大井川の4者で造りたいと思っている。例えば新東名の下を市がNEXCOから占用許可をとって無料駐車場をつくることによって、奥大井に入っていくたり、周遊できるような車を置ける拠点をつくり、大井川鐵道が入ってきてそこで乗り降りができる拠点になればいいと考えている。そしてなにより、JAが農産物のマルシェ、魚のマルシェ、カフェ、レストラン、トーマスはじめ色々な物品を販売するような施設を道をまたいで歩道橋でつなぐものがつくれないかという構想を2月の末に発表できたかなと思っているが、これはJAの理事会があるのでまだ決まっていないうが、これが正式に決まれば、また発表できると思う。大きなにぎわいの交流拠点構想のようなもので、短時間で形になっていくもの、中長期的にかかるものと合わせながらしっかりやっていきたいと思っている。</p> <p>●空港の貨物便はこれからの売り。皆様にはあまり知られていないが、空港ターミナルの横に、大きな格納庫がある。あの格納庫の中には、世界中から来るプライベートジェット機の出入国事務所を通過してタクシーに乗るなり、ヘリコプターに乗り換えてもらえば東京や伊豆に短時間でいける。そういう拠点にしたい。格納庫はプライベートジェット5～6機格納できるスペースと、出入国事務所とVIP専用ルームがあそこにはある。2020年の東京オリンピックに向けて、羽田、成田は使用料も高いことから、静岡空港のプライベートジェット専用の出入国を利用していただいて、東京オリンピックを観に行く。伊豆へ行くといったことを県とともに売り込んでいきたい。新しいターミナルができて、オフサイトセンターができていく予定となっている。その横には、県はホテルをつくる構想も持っている。空港と先ほどお話した金中跡地は車</p>

		で5、6分の距離なので、面的な整備として回遊できる場所にしていきたい。
10	<p>■しまだ楽習センターのあり方を見直すということを知っているが、楽習センターは市民平等にオープンにされている学習の場であることから、その対応等について伺いたい。</p>	<p>●楽習センターの講座をなくしてしまうとか、縮小する考えはない。実は、生涯学習の拠点として「金谷宿大学」というものとしまだ楽習センターと2つあって、通っている方は、それぞれ通っているほうのやり方がいいと思っている。「金谷宿大学」のほうは、先生も市民で、教えるほうも学ぶほうも自分たちで運営している。楽習センターのほうは、市が講座を決めて、市が先生を雇い、受講生は受講費を払って受講していただく。サービスとして受けている。徐々にではあるが、みんなで作っていく生涯学習にしていきたいという流れを思っている。「金谷宿大学」も「みんくる」とかでだけやっていたが、公会堂とかしまだ楽習センターにも来て、色々なところでお互いに授業を展開していこうじゃないかということも考えている。ただ、問題は、生涯学習なので5年なり、10年なりで長く続けてらっしゃる方もいるが、次の人（他の人）にも参加してほしいので、受講した方々はサークルをつくって、独立してもらえるといいねというような話もしている。生涯学習は教育委員会の2本柱の一つ。島田市の教育施策の柱なので、弱めるだとか削るだとかという考えを持っているわけではない。市民が自らつくる生涯学習にしていきたいと考えている。</p>
11	<p>■現在、向島町あたりまで下水道整備が進んできているが、本通地域はいつ頃の予定になるのか、又は予定にも入っていないのかを教えてください。</p>	<p>●この七丁目の地域は、平成29～31年度までの工事が入る地域となっている。ただ、昔のままの道のあるところに道のおりに入れてしまうと、区画整理をするような時代になったときに、すごく大変なことになる。高齢世帯が増えていく中で、水道料金プラス下水道料金がかかってくるので、大まかに言えば、水道料金と同じくらい上乗せがある、倍になると思う。（参加者から3倍くらいと聞いているとの声）3倍というお話が今あるわけで、そうした中で、引かれても使わないよ（自分の家まで引けないよ）という方が出てくる可能性がある。島田は下水道の普及率では県内では高いほうではない。その理由はある時期に政策的に下水道の整備をやめている。今、国は、下水道の更新には補助金を出すのが、新設に補助金や交付金を出す時代ではなくなってきている。これから大規模に市内全域に下水道を広げていくことは難しい時代に入ってきている。それでも市街地の中は、計画を立てているところは順次やっていくという方針を持っている。合併浄化槽も性能がよくなって普及も進んでいる。合併浄化槽の補助金には市も補助金を出している。こうした補助金の活用もして、単独浄化槽から合併浄化槽に替えていただくことで、より衛生的な排水ができていくと考えている。災害時においても、復旧が早いのは合併浄化槽だと思っている。</p>
12	<p>■今年コミュニティバス（の運賃）が値上がりすると聞いたが。</p>	<p>●コミュニティバスは値上げをさせていただく。実はコミュニティバスに年間2億4千5百万円の経費がかかっている。収入はわずか。今度200円にするが、100円が200円に上がることで財政的に潤うかということそんなことはない。高校生で毎日通学に使う方のいることから、子ども料金を18歳までは100円にした。他市の事例等も見てほとんど200円となっていることから、ご負担いただくことで少しでもコミバスを良くして</p>

		いくほうにつなげていきたい。値上げについては様々な御意見をいただいているが、これは、皆様のアンケート調査とか市民の皆様の声を聞きながら決めている。今まで200円の区間は300円となるが他の公共交通機関と比べれば、ずいぶん安くなるし、路線の見直し等もしていくので、御理解いただけるとありがたい。
13	<p>■市民病院の件で、今の市民病院の医療体制で、新しいものをつくるよりも、医療体制の方の改善をするほうが先だと思う。5月に市民病院に受診して、病名がわかったのが今月（1月）。今まで飲んでた薬は効かないから辞めてくれと言われた。行くたびに病名が変わる。次の受診予約をするが、次の受診日までの間で何かあったら病院に電話をして来てくださいとドクターに言われた。実際に具合が悪くなり病院に電話したら、開業医の紹介状を持ってこいと言われた。こんなバカなことが平気で通る。総合病院の機能ではない。そういう体制を少しでもなおせるような費用に先に使ったほうがいいと思う。</p>	<p>■医療体制という意味では、まさしくそうで、広報しまだが配布されるときに「ちょうしんき」という市民病院の配布物が入っていると思うが、その裏に紹介状がいる診療科と紹介状がいない診療科が載っている。紹介状がなくても診るといいうところが多くなってきているが、来ていただいた患者様に対しては、帰さないで必ず医師が診療するようにということで、服部事業管理者自ら診療してそういうこともやっている。一方で、連絡してといわれながら開業医から紹介状をもらって来てくれと言われたことに関しては、とんでもないことをやってしまったということで、このことについてはお詫び申し上げ、医療体制の改善が先だという意味では、医師の充足がないと新しい器をつくっても無理だと思っている。医師を定期的に充足する方法を考えていかなければならない。</p>
13-1	<p>■医者と技師が揃わないと何の意味もないと思う。</p>	<p>●新しい機器、機能がないと医者が集まってこないということも、現実となっている。島田市民病院は長いこと京都大学系の病院ということでやってきたが、京都大学からははっきりともう面倒は見られないと言われていた。昔の医局制度があって、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、言っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。このような状況において、県内の浜松医科大学との連携を図っていくことは必要であると考えている。今、2ヶ月に一度位、私も定期的に浜松医科大学を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。服部事業管理者も全国の大学に先生の派遣についてお願いしているところである。これからはどこも連携していくのかということも、病院の経営においては重要なことだと考えている。このような状況において、器より体制が先だというご指摘は、ごもっともなご指摘と思うが、両方が整わないと医師の確保は難しい。</p> <p>●もう一つは、築35年入る市民病院は、表側はちゃんとしているが、配管等の老朽化は、待ったなしの状況で、昨年も天井から大量の水漏れが発生するなど、メンテナンスしていても起こってくる。本来、平成19年には、病院の建設構想があって、そのとおりにいけば、24、25年には新しい病院ができていた。ところが、何度も現地建替え、街中移転だったり二転三転して、今建てて平成32年にやっと開院となる。そういうことを思うと、病院の建設もやっていかななくてはならない、同時に医師の安定的な充足も、人材の育成などもやらなければならないので、病院の課題がいかに大きいのか</p>

		<p>ということは自覚をしている。そのための研修制度、受け入れ態勢などは万全を期して、医師住宅等も全て新しくしたし、アメリカの先生方とテレビ会議ができるとか、研修医でも正規の医者と同じ給料を出すだとか、色々なことをやりながら医師の確保をやっているところ。島田には入院できる病院は市民病院だけなので、そこをきちっと整えていくことと大学病院との連携の中で協定等の締結により難病等の患者を送っていきけるようなこともやっていきたい。</p>
14	<p>■大祭にあたり、観光協会を通じて市の方から補助していただいている。七丁目は大名行例となるので、人材の確保に苦慮している。配慮をお願いしたい。このお祭りは元禄8年から始まっており伝統があることも含め、広報等を通じたPRもお願いしたい。</p> <p>■人口が減っている中で、子育て支援と空き家対策をあわせてお考えいただきたい。</p>	<p>●大祭は全国に誇れる祭りである。島田市全体が関わる祭りとして相応しい祭りであるが、長い歴史の中で、あの祭りは街の中の祭りだと周辺の人たちは思っている。このため、今、全体の祭りにしたいと思っても、それぞれの地域は、同じ時期に違う祭りをやっているという状況なので、島田市全体の祭りにするには工夫がいると思う。金谷茶まつりは、もともと中心街のお祭りだったと思うが、屋台を金谷全部の自治会から出すことで、全体の祭りをつくった。こういった、全体の祭りにするための工夫というものを考えていかなければならないが、それぞれの街が口上、しきたりにこだわって、自分たちの文化や伝統を守ってきた。全体の祭りにしてしまうと、それぞれの街の伝統やしきたりがどうなってしまうのかということもある。大祭はこのような状況を考えると、重要な局面にきている。全国に誇れる、世界に誇れる祭りだと思えるよう、島田中の人々が祭りを理解し、全国に発信していかななくてはならない。大祭は、大きな家柄の人たちが何軒もあって、街ごとに大きく支援して、祭りが成り立ってきたと思う。そうした大きな家柄の人たちはもうないわけで、お金は前と同じようにかかる。根本的なところで大事なものは続けていかなければいけないが、時代が変わってきている、商店も減ってきている中で、どうやってつなげていくのかという知恵がいる。自分たちの祭りとしてやっていくのか、観光資源として見直すのか議論を深めていかなければならない。</p> <p>●国宝級の長唄の師匠さんを招くには、相当早くからの予約が必要で、お通りの舞台の上に乗れるかという課題もある。今年は、例年1年前から準備をするが、2年前から準備に取り掛かっている。この理由は、人もお金も続かないという危機感を持っているから、準備に時間をかけている。この大祭は、市でも特別であるという認識をもっており、5,000万円程度のお金を投入している。前回は、間に合わないということで中止して、その前夜祭についていた400万円の予算をお祭りの方に上乗せして使っていただくということとした。今年はそのお金も含めて、お祭りの方のお金につけている。実行委員会では、お祭り広場をどこにするか、大名行例の最後の本陣入りをどの場所でやるのか、前夜祭をどうするのか大きな課題となっているが、どれもまだ決まっていないと聞いている。こうした中で、前夜祭をやるには、タイムリミットが近づいてきている中で、ずっとやってきていたわけではない。今年108回目になるが、110回目とかの記念の年にやることで準備することも一つの方法であると考えている。</p> <p>●実行委員会は、前夜祭、大祭は別につくらないと、準備ができないのではないかと心</p>

		<p>配をしている。お祭りをやりながら前日にやるのは難しいところがあるというのが現実であると考えている。</p> <p>●今、日本中が人口減少している。パイを奪い合っている状況。当分の間は、東京一極集中が続くと判断していて、都会に高齢者が増え、それを介護するような若者が借り出されていくと言え。地方創生は一極集中した人口を地方へ戻して、そこでお子さんを産んでもらえる政策が地方創生の根本である。国は何十万人地方に戻すといっているが、現実には東京オリンピックを控えて、一極集中はなくなるし、地方はパイを奪い合う時代に入っている。今すぐ子どもが増えたとしても、あと30年から40年は日本の人口は減り続ける。島田市も同じで、2060年に目標人口8万人に定め、そのための政策として、2020年には、(人口の)出と入りを均衡にしたいという政策を掲げて、今がんばっている。市の現状は、結婚している人は平均して2人以上子どもを産んでいる。ただ晩婚化が進んでいて、初婚年齢は女性が29歳、男性が30歳。生涯未婚率(生涯一度も結婚しない人)は、男性で15%、女性で6%くらいと思う。晩婚化と未婚化が進んでいることによって、結婚している人が2人以上子どもを産んでも、島田の合計特殊出生率は1.51となっている。子どもを増やしていくためには、就職したらキャリア積んで一人前になるには、結婚もできない、子どもも産めないという考えではなくて、20代半ばには1人目が産める世の中に変わっていかないと、40歳までに3人産めるようにはならない。女性もキャリアアップというが、女性が子どもを産める年限は40歳くらいまでであることから、子どもを産むこともキャリアアップという考え方を世の中に普及させていかなくてはならない。地方にもキャリアの女性が仕事ができる環境を整備するとともに、仕事しながらも早く結婚して、子どもを産めるような社会をつくっていかなくてはいけない。吉田、牧之原は20代前半に(子どもを産む)小さな山がある。島田にはない。吉田、牧之原が合計特殊出生率が高いのは、早い年代で結婚している人が多く子どもを産んでいる。</p> <p>●こういう人たちに家を建てていただける政策もしていかななくてはならない。まさに空き家対策もそのうちだと考えている。</p>
15	<p>■保存会として、色々なご配慮をいただきありがたい。徳川400年祭の時には、雨であったため、日本の祭りの醍醐味を見せられなかったことが残念だ。</p>	<p>●昨年2015年の徳川400年祭では、日本のお祭りということで、10大祭りということで、島田大祭がそのうちの一つに選ばれて、雨模様であったため、静岡市市民会館でやったことが残念ではあったが、300年祭のときも島田大祭は、この日本の祭りの中に入っていて、400年祭で100年前も出ていたのは島田大祭だけだと思う。やはり、島田の祭りの偉大さはこういうところにも出ていると思う。100年前の参加当時の写真も見つかって、大変価値あるものだった。</p> <p>●島田大祭の人の部分について。教育委員会の方に中学生を出せないかと言うことで協力をお願いしている。3年前にも中学生を出せないかと、各街にお願いしたが、お酒を飲む機会があるということで、街の方から断られた。中学生がお祭りに関わることで、</p>

		伝統・文化を知ることができるし、ふるさとに戻ってくる（回帰してくる）、大きな理由付けにもなるので、今年は是非中学生も仲間に入れていただけるとありがたい。
16	<p>■保存会でも、第四小、第五小、六合小の3年生を対象に、祭りの講座を開催し、有意義な学習ができたので、これからも、子どもたちが祭りの良さ、興味を持ってもらえるように取り組んでいくので、行政もご配慮願いたい。</p>	<p>●教育委員会にも伝えておく。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

